

## 錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第488号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2025みんなでつくる  
錦城高校新聞一面…三週間の振り返り、教育実習生に取材！  
dive in 後夜祭！  
二面…ハンセン病資料館にて人権について学ぶ  
全国へ映画研究部と吹奏楽部定期演奏会

## 挑み続ける先輩方の姿

実習生に取材「この先生だからできる授業を」

## 実習生3週間の振り返る

6月13日(金)放課後に、3週間の教育実習を終える英語科・古池理乃先生、関野美羽先生、理科・月井翔太先生、情報科・相原莉子先生、国語科・田口耀先生、そして社会科・田村怜士先生の6名の先生に錦城での実習を振り返ってもらった。

## 授業の奥深さを痛感

なごやかな雰囲気の中、集まっていた実習生に教育実習の前後で「先生」という職業に対して、どのように印象が変化したのかを尋ねた。古池先生は、はじめは自分の計画をこなすという自分本位の授業だった反省点から、先生方の圧倒的な準備に気付いたという。例えば、国語科・太田



教育実習生全員集まって1枚



面白く授業をすることの難しさを感じました

だということを感じたそう

田口先生は、高校時代は先生のことを、生徒にいろいろなことを教えてくれる存在だと思っていたそうだが、自分が教壇に立つてみて、生徒から教えてもらうことが多かったと教えてくれた。

相原先生は高校時代、先生方が楽しそうに教えてくれる授業が大好きだったという。教科の広がりや面白さを教えることが、自らも楽しみ授業をしたかったが、伝えにくいとい

## 後夜祭実行委員長にインタビュー

チームは「dive in 後夜祭」

今年の後夜祭も準備が進んでいる。今年度後夜祭実行委員長の山田理穂さん(21)によると、今年度のテーマは「dive in 後夜祭」。



皆が楽しめる後夜祭に

「dive in 後夜祭」は、去年よりさらに人全員が楽しめる後夜祭になるように、昨年よりもグ

レドアップさせたいです」と語る。

昨年度の委員長に影響を受けて、委員長に立候補した山田さん。「昨年はいまの3年生がたくさん引張ってくれたから、今年は自分が力を入れて引張っていききたいです」と意気込む。実行委員から錦城生へ、後夜祭ではペンライトを使用するが、学校が配

## 希望にあふれた将来を語る

今後の意気込みについて古池先生は、英語科・大崎先生が6月の1週間前に事件が起こった場所に訪れていたという授業の小話がつづいて印象に残っている。「この先生だからできる授業をしたいです」と話す。教師としての個性を磨くために1度「先生」以外の仕事で社会に出てみたいと意気込んだ。関野先生は、教員になるまで期間が空くため、この経験をしつかりと忘れないようにしたいという。実際に生徒



教師としての個性を磨きたい

とふれあうことはなかなか得づらい経験ということで、改善しながら教師を目指すという意気込みで、苦労も多かったが、違う視点を得られたと振り返り、今後は最良の授業ができたという。月井先生は、「科学のプロジェクトになりまして、力強い宣言をした。錦城の先生方の授業は、身近な科学を教えてくれているという、自らもあらゆるものを科学につなげられる人になりたいという



最良の授業ができた

将来に向けて意欲を見せ挑み続ける教育実習生の姿を今回の取材で目の当たりにした。先生方の姿を追い、自分

## 達成感と志を胸に

男子バスケットボール部

男子バスケットボール部は5月11日(日)から始まったIH予選に参加し、東京都の高校325校中ベスト32という快挙を成し遂げた。

「チームの目標を達成できてよかったです」と話してくれたのは部員の田村熙太郎さん(2C)。試合終了の瞬間に感じた「勝った」という達成感が印象に残ったそう。チームの長所でもある「ベース」を重視した練習を多く行い、本試合でも切り札となった「速攻」を普段の練習にも多く取り入れたという。また、田村さ



男子バスケットボール部提供

「満足感があふれ出るような感覚でした」と話してくれたのは北島仁さん(3E)。本試合に向けての練習では相手の速いドリブルについていけないように意識したそう。北島さんもまた、福岡遠征での経験が本番のプレーに大きく影響したという。「遠征で強い敵と戦ったからこそ、本試合で相手は飲まれずに落ち着いてプレーすることができました」と語ってくれた。北島さんは、チームに向けて「ここまで一緒に来てくれてありがとう」と感謝の言葉を述べた。(燕)

ホールに響いたあたたかい音色  
室内楽部定期演奏会開催

美しく奏でる室内楽部

6月21日(土)、ルネこだいら中ホールで室内楽部の定期演奏会が行われた。第1部最初の曲は、新入生歓迎会でも演奏される「情熱大陸」。重なり合う音色がホール中に響き渡り、一気に観客を引き込んだ。『アルルの女』より『ファランドール』では、明るく軽やかな場面から、クライマックスの華やかで壮大な場面への華麗な音の変化を見せた。

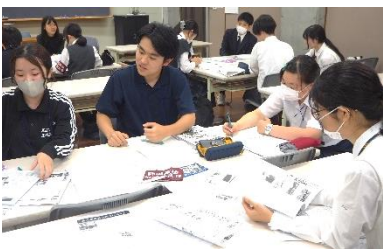
続く第2部は学年曲の演奏から始まった。幕開けを飾ったのは今回が初舞台の1年生が奏でる「プーレ」。

2年生は、ゆるやかな曲調だが迫力のある「春よ、来い」。そして3年生の「イエスタデイ」は、繊細なメロディーを低音がしっかりと支える、最上級らしい息の合った演奏だった。第2部のラストは、2台のヴァイオリンとピアノで奏でる「チャルダッシュ」。3つの旋律が互いを引き立てあい、テンポがめまぐるしく変わる中でも乱れない美しい音色が会場を魅了した。

部員全員が演奏する第3部、最初の「リメンバー・ミー」では、しっとりとした始まりから一転、明るいリズムで観客を楽しませた。「アイノカタチ」では、演奏中に顧問の神谷洋行先生が今回の定期演奏会をもって引退する3年生を1人ずつ呼名し、会場は大きな拍手に包まれた。部長の小村昌史さん(3E)は、部長挨拶で、顧問の先生や外部の技術指導の先生へ感謝を述べ、また後輩に向けて仲間と支えあうことの大切さを伝えた。2年間を振り返って「今この場にいられて嬉しい」と率直な気持ちを話した。アンコールの「愛をこめて花束を」では、それぞれの楽器の音が混ざり合い、フィナーレにふさわしい美しく、壮大なハーモニーを奏でた。(梶)

他校との交流で、新聞について学ぶ  
東京都新聞講習セミナー参加

6月14日(土)に私立三輪学園でお茶の水女子大学附属高校、立川高校、戸山高校、錦城高校、昭和第一高校、三輪学園中学校・高校の新聞部・委員会が集まり、新聞製作について学ぶ交流セミナーが開催された。新聞づくりの基礎的な用語や手順の説明を受けた後、4班に分かれて行われたのは記事の内容やレイアウトを決めるグループワーク。各班で「特集記事を入れた、学校行事が無い月の学校新聞」という状況設定のもと、制作方法や過去の経験を持ち寄って紙面の構成を考えた。普段の新聞の製作工程や手順、取り上げる内容が各校で異なるため、作業が行き詰まり難航する場面も見られたが、話し合いを重ね他校生とも協力し、最後には全班が無事に新聞のレイアウトを完成させることができた。他校の視点、工夫を学ぶことで新聞づくりに関して考えを深める良い機会となった。セミナーに参加した錦城高校新聞委員会の飯田夏乃香さん(1K)は、「他校の特集やコーナーを見て、自分も挑戦してみたいと思いました」と前向きに感想を語った。(藤)



「どんな特集をしているんですか？」

## むらさき草

毎年咲いている近所の紫陽花が、今年は一輪も咲かなかった。花が咲く前に葉を虫に食い荒らされてしまっ、今では茎と葉脈しか残っていない。毎年その紫陽花が梅雨の到来を感じていたが、寂しい気持ちだ。近年、カメムシが稲の汁を吸ってコメが黒くなってしまうことが増えているという。食害は昔からあったが、温暖化で越冬できるカメムシが増え、被害が拡大しているそう(農研機構中日本農業研究センター、2023「斑点米カメムシ類の被害及び防除法」参照)。

しかし、カメムシの増加の一因が温暖化ならば、それは人間に責任があるともいえるかもしれない。そんなカメムシを活用しようという動きがあるそう。兵庫県立大学付属中学校の3年生がプロジェクト学習で、カメムシの生態から芳香剤を作る研究に取り組んだ。25種類のカメムシを捕獲し、フルーティーな香りを出すマツヘリカメムシと甘いクッキーのようなにおいのエビロカメムシの2種類を選び、甘い香りの抽出に成功した。大量のカメムシの捕獲や飼育方法の課題があり製品化には至らなかったが、チームリーダーの定倫太郎君(15)は「製品化できなかった原因を突き詰め、今後も研究を続けたい」と語った(読売新聞オンライン2025年2月8日配信記事)。そもそもカメムシにいい香りの種類がいるとは知らなかったし、嫌われ者のカメムシを社会に役立てたいという試みに驚いた。困る「困らない」というのは人間の都合で、虫も嫌がられるために生きているわけではない。しばらくしてみると、あの紫陽花にも小さいながら花が咲いていた。虫も花もすべてありのままに生きている。今回のカメムシの事から、「害虫」「益虫」と決めつけずに、色々な視点からみることが大事だと感じた。(梅)

# いのちの選択の権利について学ぶ

## ハンセン病資料館副館長と人権を考える

6月14日(土)、探究活動で紹介された、東村山市にある国立ハンセン病資料館の「副館長と考える人権」講演会に、編集部が参加した。副館長の宮本弘典さんのお話を伺った。

### 自分の意志で生きていく

講演会は初級編と中級編が予定され、今回は資料館で開催された2回目の講演に参る。副館長の宮本弘典さん、スタッフの方々の他、編集部から3名、社会人3名が集まった。講演では、刑務所における自由権や生存権の侵害の可能性や、尊厳死や安楽死に対する自己決定権の考え方の話を伺った。

は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」のことである。例えば万引きは犯罪だが、様々な事情で働けない中で罪を犯してしまう人がいる。働けない状態があり、そこに社会的な助けが何もない場合、生存権の侵害が起きてしまっていると言える、と宮本さんは語る。また、刑務所に入ると犯罪を起す人もいる。そのような人々がいる状態は、普通の生活が送れない事だ。さらに高校生



「権利の侵害ではないか」と考えることが大切

また、刑法68条では「人を殺す者」の「人」の中に自分が含まれていないため、犯罪の中に自殺は含まれていない。一方で自殺への協力やそのかすことは犯罪となる。そこに本人の意思がある場合、それに協力することだけを犯罪とするのは、自己決定権の侵害ではないかという議論もあるという。私たちは多数派の意見が正しいと考えてしまいがちであり、「本当に自己決定と言えるのか?」「これは権利の侵害ではないか?」

## 映画研究部 28年連続全国出場決定

### 「未来は足元から」という言葉を大切に

6月15日(日)に行われた第72回NHK放送コンテスト東京都大会決勝にて、映画研究部がドキュメンタリー部門で優勝、ドラマ部門で準優勝となり、全国大会出場を決めた。全国大会への出場は今年で28年連続となる。取材に応じてくれた土井夕璃さん(3G)と宗田菜愛さん(3H)は、それぞれ全国に出場が決定して安心した、全国大会出場の流れを崩さないで良かった、と話してくれた。土井さんはドラマ部門の代表者、宗田さんはドキュメンタリー部門の代表者だ。大会当日は、何



全国出場が決定して安心という2人

ドラマ部門は「白い影の選択」という作品。高校生の主人公が未来から来たAIと関わっていく、というストーリー。ドラマの制作は予定よりも遅れていたため、締め切り間近で、土井さんは他の部員に「最後まで諦めずに頑張ってください」と声をかけた。ドキュメンタリー部門は「未来は足元から」という作

品で、ローファイを題材にした。錦城高校には、黒いローファイで登校しなくてはならないという校則がある。なぜローファイなのか、という疑問からこの題材にたどり着いたとのことだ。制作の際に、靴の専門家や国会議員の方、校長先生など、たくさんの方に取材をしたようだ。宗田さん達制作チームは、取材に応じてくれた人は皆、熱い思いをもった話をしてくれたため、思いがしつかり伝わるように作品を工夫したという。宗田さんは他の部員に対し、「未来は足元から」という言葉を大切に、部活動も学校生活も充実させてほしい」と話してく

と考えることが大切だと宮本さんは語る。対談では参加者から、ホームレスの方を保護しようと施設に勧誘したが、有難迷惑で放っておいてほしいと断られたという話が紹介され、親切心も受け取る人によっては強制になったり、不利になったりすることが人権を考える上でも重要な課題となることの話となった。

### 今回の講演で学んだこと



講演会についての資料

今回の講演を通して、人権を考える際の様々な難しさを学んだ。記者は、自己決定権が

### 資料館について

ハンセン病とは、らい菌と呼ばれる細菌が原因となって起こる感染症だ。近代以降、誤った政策により、患者・元患者やその家族が差別などを受けたりという人権問題が起った。これがハンセン病問題と呼ばれるものである。患者の強制隔離も行われ、人権が無視される政策が数多くあった。現在では、ハンセン病は感染力が弱く、完治することが分かっている。国立ハンセン病資料館は、ハンセン病問題に対する正しい知識の普及、啓発による偏見・差別の解消及び患者・元患者とその家族の名誉回復を図ることを目的とする施設だ。東村山市青葉町に位置し、錦城高校からは自転車です約20分の場所にある。ここでは、全国にある14

## 吹奏楽部 記念の第50回定期演奏会

### 3年生心込めてラスト演奏

#### 大盛り上がりの定期演奏会

音楽科・新野将之先生が作曲した錦城祝典ファンファーレで華やかにスタートした吹奏楽部定期演奏会。第1部ではクラシックステージを披露。掛け合いが美しい壮大な演奏に観客からは「ブラボー」との声も上がった。

第2部はステージドリル。力強い演奏をしながらも、角度までそった動きやかわいらしいポーズで魅せる。ラストの「カイト」は3年生のみの演奏となった。3年生はこの定期演奏会で卒部となる。13人の音が響き渡り、鳥肌の立つ1曲に。

第3部のポップステージではお揃いの演奏会シャツを着て、映像を使いながら観客を世界観に引き込んでいく。「愛唄」ではこれまでの思い出の写真とともに3年生が呼名されていく中、1、2年生が感謝の演奏を行った。その後の部長あいさつでは岡田桜歩さん(3L)が、このメンバーで行う最初で最後の定期演奏会と話し、「何度もぶつかり、乗り越えた3年間でした。部員とは、家族よりも長い時を一緒に過ごしてきました。みんな大切な存在です」とステージ上で笑顔を見せた。終盤の「フライングゲット」では部員や顧問の先生方がノリノリでダンスを披露し、「ジブリメドレー」ではカオナシが登場し指揮を振るなど大盛り上がりで幕を閉じた定期演奏会。

初出演した1年生は、「3年生と一緒に演奏することができて、とても楽しかったです。先輩方のソロやドリルの演奏がとてもかっこよく、私も先輩のようになりたいと感じました」と振り返った。一方、サックスを担当し、学生指揮も担当した増吉純平さん(3H)は「伝統を守りつつ、色を付け加えながらこれからも頑張ってください」と後輩にメッセージを送った。



匠巻の「第六の幸福をもたす宿」を披露

#### 音楽科・新野将之先生作成! 錦城祝典ファンファーレ

1曲目の「錦城祝典ファンファーレ」は、錦城高校音楽科・新野将之先生によって、定期演奏会第50回記念に対する祝福の気持ちを込めて作曲された。曲中では、錦城高校の校歌の一部が使用されている。新野先生はこのファンファーレについて、錦城生にとっては聞きなじみのあるメロディーであるため、球技大会のオープニングなど、またどこかで機会があれば再演をしたいと語った。

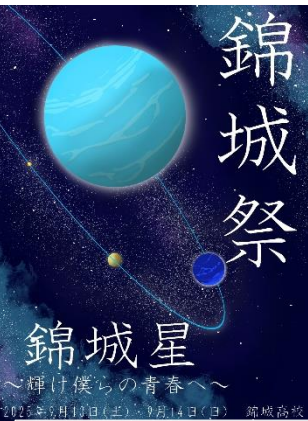
#### 最後のポーズを決める



#### OBOG 会会長 「1つのハーモニーを創っていくことを楽しんで」

1200人もいる吹奏楽部 OBOG 会会長で25回生の野田憲司さんに話を伺った。当時は男子校で、野田さんは野球部に入ろうと思っていたそうだが、顧問である梶原先生に誘われて吹奏楽部に見学、鳥肌が立つほどの演奏に魅了されて入部したと振り返る。ドリルは男子高時代から続くものだそうで、共学化にあたり続けることができるのかという声もあったというが、今でも受け継がれており、コスチュームのデザインも変わらないそう。現役生の演奏に対して「一生懸命になっている姿を感じました」とコメント。「目標より目的。みんなで音楽を創るという目的を達成してほしいです。仲間がいて1つのハーモニーを創っていくことを楽しんでほしいです」と笑顔で語ってくれた。(桃・藤・風)

## 錦城祭ポスター&表紙完成!



左は渡邊心咲さん(2I)作成のポスター、右は熊井梨乃さん(3H)作成の表紙。提供は錦城祭実行委員会。

## 第487号の訂正とお詫び

【裏 SNS 特集】  
誤) 4950 オーストラリアドル  
正) 4950 万オーストラリアドル  
訂正してお詫び申し上げます

## 文藝部 詩の部門で関東大会出場決定

### 「檸檬」の回想を面白くと思い詩を作成



創作に励む

6月1日(日)にハリウッド大学院大学で東京都高等学校文化連盟主催の第48回東京都高等学校文化祭文芸部門地区大会が開催され、文藝部の藤崎真優子さん(3I)が詩の部門で佳作を、短歌部門で生徒賞をそれぞれ受賞した。この結果、この夏の第26回関東地区高校生文芸大会の詩の部門に出場が決定。藤崎さんは顧問の先生に勧められ、せっかくだからと作品を提出した。受賞の報告を聞いたとき、引退前に良い結果を残すことができて良かったと思ったそうだ。

今回の詩について、「国語の授業で『檸檬』(梶井基次郎)を扱ったとき、主人公が幼いころにビー玉をなめることが好きという回想が出てきて、食べる動作を食べ物以外でやっているのが面白いと思い、詩を作った」と藤崎さんは制作のエピソードを話してくれた。これからは受験だが、受験が終わって落ち着いたらいりんな詩や、作品に触れて良いものを書けるようになりたいと藤崎さんは語る。

文藝部の部員たちに、「部活で話したりすることで良い影響を受けられたり、受験勉強をするための励みになっているので感謝している。同じ趣味を持っている人や、創作をしたいと思っている人と集まれる機会は貴重なので、3年間に多様な考え方に触れあってこういうものを書いてみたいと思えるようになってみて欲しい」と感謝とエールを送った。(蓮)

| 大会報告                                         |         | 大会報告                                         |         |
|----------------------------------------------|---------|----------------------------------------------|---------|
| 男子体操部                                        | 6月8日(日) | 男子体操部                                        | 6月8日(日) |
| 令和7年度東京都高等学校総合体育大会体操競技大会兼全国高等学校体操競技大会東京都予選大会 |         | 令和7年度東京都高等学校総合体育大会体操競技大会兼全国高等学校体操競技大会東京都予選大会 |         |
| 団体5位                                         |         | 団体5位                                         |         |
| 石井利勇(3J)                                     |         | 石井利勇(3J)                                     |         |
| 小林照雅(3F)                                     |         | 小林照雅(3F)                                     |         |
| 清水栄佑(3D)                                     |         | 清水栄佑(3D)                                     |         |
| 福岡瑛貴(2J)                                     |         | 福岡瑛貴(2J)                                     |         |
| 合奏祭実行委員会                                     | 6月6日    | 合奏祭実行委員会                                     | 6月6日    |
| △代議委員会                                       | 6月13日   | △代議委員会                                       | 6月13日   |
| △後夜祭実行委員会                                    | 6月18日   | △後夜祭実行委員会                                    | 6月18日   |
| △図書委員会                                       | 6月24日   | △図書委員会                                       | 6月24日   |